

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
日本国憲法		こども保育学科/1年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	福田 稔
授業の概要				
日本国憲法全体の主要事項(国民主権・平和主義・基本的人権尊重・統合機構)の意味内容を体系的に理解しながら、そこで取り上げられる政治的・憲法的課題について自ら考える学習を行う。また、憲法が求める理念と現実社会との間にどのようなギャップがあるかを見つめながら、憲法問題に対する国民としてのリーガルマインドを養う。				
授業終了時の到達目標				
・新聞や映画など学生に身近な、憲法と関連のある題材を取り上げ、何が問題となっているのかについてグループワークを行い、さまざまな考え方があつたことを体験し、各自が考察するための軸のひとつを獲得する。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
日頃からニュースや新聞に目を通し、社会の動きをみる。				
回	テーマ	内容		
1	憲法と立法主義	憲法とは何か、憲法の意味や特質などを学ぶ。		
2	日本国憲法の構成と基本原理	日本国憲法制定の歴史、日本国憲法の前文、本文の構成について学ぶ。		
3	平和主義	日本国憲法の平和主義、憲法第9条の解釈と運用について学ぶ。		
4	基本的人権	人権の尊重、日本国憲法における人権の体系について学ぶ。		
5	包括的人権と法の下での平等	日本国憲法第13条の法的性格、生命・自由・幸福追求」権について学ぶ。		
6	精神・身体に関する自由権	思想・良心の自由、身体に関する自由について学ぶ。		
7	社会権	日本国憲法第25条の規定、生存権の法的性格を学ぶ。		
8	国民の基本的義務	日本国憲法に定める国民の3大義務について学ぶ。		
9	国会と立法権	国会の地位と性格や「国権の最高機関」、「唯一の立法機関」の意味について学ぶ。		
10	内閣と行政権	内閣に帰属する行政権、議院内閣制について学ぶ。		
11	裁判所と司法権	司法権の観念、司法権の範囲、更に日本国憲法における司法権の観念について学ぶ。		
12	財政	財政立憲主義の原則、租税法律主義について学び、我々の生活と税金の関わりについて学ぶ。		
13	地方自治	日本国憲法第92条に定める地方自治の意義、また地方自治の性質について学ぶ。		
14	憲法改正について	憲法改正の手続きを学ぶ中で時事問題に触れる。		
15	日本国憲法全体について1	国民生活の中での日本国憲法との関わりを考察する。		
16	日本国憲法全体について2	日本国憲法改正についての討論		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
憲法		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末試験60% 授業態度40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
情報処理入門 I		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	越智悦子
授業の概要				
近年、幼稚園や保育園でも情報機器が盛んに導入されるようになってきた。そこで、本科目は、パソコンの仕組みや歴史など基本的なことを学習する。また、ワープロソフトのWordや表計算のExcelなどを学習することにより、就職現場において効率的な業務を行えるようにする。				
授業終了時の到達目標				
パソコンの基本的作業が行える。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		穴吹キャリアアップスクール・穴吹カレッジサービス(パソコン指導:17年) eとぴあかがわ(パソコン指導:8年)、香川大学(パソコン指導:3年)		
時間外に必要な学修				
授業内容の予習、教材作成				
回	テーマ	内容		
1	Word	Wordについて 基本的な文書の作成		
2	"	図や表の挿入 文書の印刷		
3	"	表現力をアップする		
4	"	作品作り		
5	Excel	Excelについて データの入力・表の作成		
6	"	表の編集 予定表の作成		
7	"	データベース機能 カレンダーの作成		
8	Word・Excel	テンプレートを使用した作品作り		
9~ 11	PowerPoint	PowerPointについて プレゼンテーションの作成 図・図形の等		
12~ 16	"	班ごとにスライドショーを作成 発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
情報処理入門 I 情報リテラシー入門編		総合評価	100.0%	【採点の内訳】 授業態度 40% 提出物 40% 発表 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座 I		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
働くとはどのようなことなのかをベースにライフサイクルと仕事について考えていく。また、社会人としての一般常識として次の内容を中心に授業を行う。 ①ビジネスマナーの基本。②就業中のマナー。③指示の受け方と報告・連絡・相談。④話し方の基本。⑤敬語の使い方。⑥会議への参加。⑦電話対応。⑧来客対応と面談基本マナー。⑨仕事とIT。⑩ビジネス文書の基本。				
授業終了時の到達目標				
ビジネスマナーの基礎知識と一般常識全般を学ぶ。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
将来目指す職種を絞れるように、研究を行う。				
回	テーマ	内容		
1	保育の仕事	保育所、幼稚園、その他施設の仕事内容を理解する		
2	ビジネスマナー①	身だしなみの基本、しっかりとしたあいさつ、報告・連絡・相談		
3	ビジネスマナー②	正しい言葉づかいと電話、敬語の使い方		
4	就職活動の仕方①	活動の流れ		
5	就職活動の仕方②	情報収集・分析・整理、求職票の見方		
6	自己分析①	自己分析の重要性・意義、自己分析の方法		
7	自己分析②	自己分析シートの作成		
8	自己分析③	自己PRの方法、第三者の活用		
9	履歴書の作成①	各項目の書き方のポイント、履歴書の見方		
10	履歴書の作成②	履歴書の作成		
11~12	応募・採用試験に向けて	各種書類の見方及び作成、気持ちの持ち方		
13	将来のビジョン(ゴール)	作成及び発表		
14	面接練習①	個別面接の練習		
15	面接練習②	集団面接の練習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
オリジナル教材及びレジュメ		総合評価	100.0%	【採点内訳】 提出物70% 授業態度30%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
英会話 I		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	T. R. マティソン
授業の概要				
<p>日常的で平易な会話文を学びながら英語表現、イディオムや文法を習得する。  また、実際に基本文型のパターンを応用してコミュニケーションの手段として実践力を身につける。  また、これらのことを学ぶことで、英語表現力をふやす。</p>				
授業終了時の到達目標				
保育関係の英単語・表現を理解し、使えるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		英会話指導歴44年		
時間外に必要な学修				
事前にテキストを読み、必要に応じて復習すること				
回	テーマ	内容		
1	Pre-Unit: Please Speak More Slowly	英語でコミュニケーションをするときの基本表現		
2	Unit 1: Hi, I' m Yuri Tanaka	挨拶・自己紹介 保育時間		
3	Unit 2: Where is the Multi-Purpose Room?	園内の案内 園の構成員		
4	Unit 3: Good Morning. How are You Today?	登園時の会話 持ち物		
5	Unit 4: What Color Do You Like?	工作時間の会話 好きなもの・嫌いなものを聞く		
6	Unit 5: There' s a Ladybug on the Leaf	園外散歩での会話 場所を表す表現		
7	Unit 6: It' s Time to Play Outside	園庭での会話 遊具の名前		
8	Unit 7: She is Allergic to Eggs	保護者からの相談 食に関する好き嫌い、アレルギーの有無を伝える表現		
9~12	Units 8 ? 11	お昼寝時間の会話 園行事の英語名 降園時の会話 時刻を表す英語		
13~16	Units 12 ? 14 Overall Summary & Test Explanation	体調不良の園児との会話 最後の日の会話・お礼 電話応対に便利な表現 まとめ・試験について		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・期末試験70% ・授業態度30%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康科学		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
<p>現代社会は「超高齢社会」「余暇社会」などと呼ばれ、人類がかつて経験したことのない時代を迎えている。このような中において、来るべく社会の問題や課題に対してスポーツはどのような意義や機能を持っているのであろうか。</p> <p>スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎知識・技術を習得する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>スポーツの意義とこれからのスポーツの課題を知る</p> <p>健康維持においてスポーツの役割を把握</p> <p>健康管理のための運動法を知る</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>幼稚園・保育所において体育指導25年</p> <p>障害児の体育指導 3年</p> <p>健康運動指導士として、親子体操などの健康スポーツ指導を行う。</p> <p>現代社会においてスポーツの必要性を経験の知識から伝える。</p>		
時間外に必要な学修				
自分のための、自分自身の健康づくりについて考える。				
回	テーマ	内容		
1	スポーツの概念	スポーツの語源と意味		
2	社会生活の変化とスポーツ	余暇社会とスポーツ		
3	スポーツの現状	学校スポーツと生涯スポーツ		
4	健康の概念	現代社会の健康阻害要因		
5	生活と運動	生活習慣病 ロコモティブシンドローム		
6	〃	運動と健康 食生活と健康		
7	運動処方	運動処方の計画・運動の実践		
8	健康な生活の設計	現代社会とストレス 薬物・アルコール・たばこと健康		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
健康科学		総合評価	100.0%	【評価内訳】 授業態度：10% 提出物：20% テスト：70%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
生涯スポーツ		こども保育学科/1年	2020/通年	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	23回	1単位(46時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
スポーツ活動をライフスタイルの中に位置づけ、自主的・主体的に実践していくために必要な基礎的知識、技術を修得することにくわえ、「誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを」という生涯スポーツの理念の実現に向けた学びをする。				
授業終了時の到達目標				
自分自身で身体を動かし、どのようなスポーツをどれくらいの頻度取り入れたら良いか考える。子どもの指導を経験しながら、保育者としての姿勢も同時に学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園・保育所で体育指導25年 障害児の体育指導3年 香川県教育委員会保健体育課 体力向上指導者研修会講師 実際にスポーツを行いながら、子どもの指導ポイントについても伝える。		
時間外に必要な学修				
生涯スポーツの必要性について考える。				
回	テーマ	内容		
1	身近な生活の場にスポーツを取り入れる大切さを学ぶ	生涯スポーツの効果を講義と実技で学ぶ		
2	保育現場における指導について	多様な動きを引き出す運動遊びを考え、指導ポイントについて学ぶ		
3~11	実践(各種スポーツを経験する)	各種スポーツを経験し、身体を動かす重要性を考える。		
12~15	実践(バレーボール・卓球)	バレーボール・卓球のルールを知り、身体を動かすことを楽しむ チームで協力してコミュニケーションを円滑に形成する。		
16~19	実践(バスケットボール・パトミントン)	生涯スポーツの意義を理解し、楽しむことができる。 勝負だけではなく、チームで協力することの大切さを学ぶ		
20~23	実践(スケート)	冬季スポーツスケートの基本的技術の習得を目指す。 チームに分かれ演技の発表を楽しむ。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【評価内訳】 授業態度：80% 提出物：20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育原理		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西本 佳代
授業の概要				
初めに教育の意義、目的及び児童福祉等とのかかわりについて学ぶ。その上で、教育の思想と歴史的変遷について学び今日の教育に関する基礎的な理論について理解する。また、教育の制度について理解し、それに伴う教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。これらのことを踏まえて現代の生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。				
授業終了時の到達目標				
教育の意義と目的及び子ども家庭福祉等との関わりについての理解。 教育の思想と歴史を学ぶ。 教育の制度や取組について理解。 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
テキストを熟読する。				
回	テーマ	内容		
1~ 2	「教育」とは何か？	学校で好きな事・嫌いなことを考える (KJ法) 教育のメリット・デメリットを考える		
3~ 4	「遺伝と環境」と教育	アヴェロンの野生児について 遺伝と環境と教育		
5~ 6	西洋の教育思想①	教える思想・学ぶ思想 紙芝居の作成 (ルソー・ペスタロッチ・フレーベル・モンテッソーリ)		
7~ 8	西洋の教育思想②	紙芝居の発表 教育思想の振り返り		
9~ 10	子育てを社会が支える	子育てを社会が支える ディベート「赤ちゃんポストの設置について」		
11~ 12	保育・幼児教育制度の変化、育児の失敗説を再考する	保育・幼児教育制度の変化 育児の失敗説を再考する これまでの「教育とは何か」を考える		
13~ 14	教育とジェンダー	メディアと教育 (白雪姫) メディアと教育 (マレフィセント)		
15	教育とは何かを振り返る	振り返り		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教育原理		総合評価	100.0%	【採点内訳】 小テスト50% 期末試験50%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会福祉		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。これらのことを基礎に、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系について理解し、社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。更に、共生社会の実現と障害者施策について学びを深める。これらの学びを踏まえて社会福祉の動向と課題について考察をする。				
授業終了時の到達目標				
保育者に求められる社会福祉に関する基本的な知識を習得する。 さらに、生活者としての視点で、現代社会における諸問題とそれに対応する社会福祉の意義と役割を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院にて援助業務を5年 現場経験を活かして援助技術の方法等を事例を通して授業を行う。		
時間外に必要な学修				
「社会福祉」の領域について自分の考えをまとめる。				
回	テーマ	内 容		
1	社会福祉の理念と歴史の変遷	社会福祉の概念、理念 社会福祉の歴史の変遷		
2	子ども家庭支援と社会福祉	子どもの最善に利益を尊重する子ども家庭支援 保育所等保育施設を中心とした子ども家庭支援		
3	社会福祉の制度と法体系	社会福祉における法律と制度 法制度の種類と具体的内容		
4	社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等	社会福祉行政の体制、福祉の財政 社会福祉施設とは		
5	社会福祉の専門職	社会福祉に関する資格について 児童福祉施設に配置される専門職		
6	社会保障および関連制度の概要	社会保障制度とは 子育て世帯の現状		
7	相談援助の理論	相談援助理論の体系化 保育所・児童福祉施設における相談		
8	相談援助の意義と機能	相談援助の特徴、原則、意義と機能		
9	相談援助の対象と過程	保育における相談援助 相談援助の過程		
10	相談援助の方法と技術	保育現場における相談援助の方法と技術の理解		
11	社会福祉における利用者の保護にかかわるしくみ	権利擁護と苦情解決 成年後見制度、日常生活自立支援事業等		
12	少子高齢化社会における子育て支援	人口動態と少子化の現状 少子化対策について		
13	共生社会の実現と障害者施策	障害のとらえ方、現状 障害者福祉の展開		
14	在宅福祉・地域福祉の推進	地域福祉の概念 関係機関との連携・ネットワーク		
15	諸外国の社会福祉の動向	社会福祉と福祉国家		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会福祉		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末試験 60% 提出物 20% 授業態度 20%



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会的養護 I		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
社会的養護の意義・歴史的変遷の把握を基盤に、児童観を含め児童の権利擁護、社会的養護の制度、実施体系、自立支援等の現状及び課題の理解を通して、保育士としての多様なニーズへの対応、児童の生活・成長・発達の支援の在り方について考察する。				
授業終了時の到達目標				
社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		病院にて援助業務を5年 現場経験を活かして援助技術の方法等を事例を通して授業を行う。		
時間外に必要な学修				
こどもの権利と児童憲章について調べておく。				
回	テーマ	内 容		
1~ 2	現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷	社会的養護の理念と概念 社会的養護の歴史的変遷		
3~ 5	社会的養護の基本	子どもの人権擁護と社会的養護 社会的養護の基本原則 保育士等の倫理と責務		
6~ 8	社会的養護の制度と実施体系	社会的養護の制度と法体系 社会的養護の仕組みと実施体系		
9~ 12	社会的養護の対象・形態・専門職	社会的養護の対象、専門職 家庭養護と施設養護		
13~ 15	社会的養護の現状と課題	社会的養護に関する社会的状況 施設等の運営管理 被措置児童等の虐待防止		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
社会的養護 I		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末試験 60% 提出物 20% 授業態度 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育者論		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
<p>保育者の役割・職務内容と倫理について理解する。児童福祉法における保育士の定義を理解した上で、保育士の専門性について考察する。  また、保育者の連携・協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ。  更に、組織とリーダーシップについて学びを深める。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育者の役割。職務内容と倫理について理解する。児童福祉法における保育士の定義を理解した上で、保育士の専門性について考察する。  また、保育者の連携協働について学び、保育者の資質向上とキャリア形成について学ぶ。  更に、組織とリーダーシップについて学びを深める。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、関心を持った事柄を積極的に是案し、授業の中で協議する。また、レポート設題集及び科目、ミ末試験設題集にも目を通しながらテキストの関係個所の熟読。				
回	テーマ	内容		
1	教育とは何か・・・教育について考える 教師とは何か・・・教師について考える	育てる事と教える事(成長助成と伝達と形) 子どもへの信頼と子どもの心		
2	教職とは何か 教師の資質能力とは	教職という仕事とその使命の理解 教師に求められる資質能力と指導力とは		
3	日本における教師の歴史 学制の制定から戦後の教師	学制の制定師範学校の創設-教育勅語とは・大正期の教師の地位 戦時下の教師・・・軍国主義と教師・戦後の教師		
4	仲間集団の現状と子どもの社会的発達 地域社会の教育力	子ども達を取り巻く社会環境と現代社会の子ども 地域社会の教育力と低下・地域住民との関わりと教育力の再構成とは		
5	幼稚園、保育所、認定こども園の生活と遊び 子どもにとっての遊びとは	園での一日の流れと保育者の仕事とは 遊びと保育の中での遊びとは(保育の形態、指導計画等)		
6	小学校との連携 小学校での遊びと授業のとらえ方	小学校の役割と教員の資質 授業のとらえ方と専科教員について		
7	学校を支える人と仕事 ひとつのチームとしての学校とは	学校を一つのチームとしてのとらえ方と必要性 専門スタッフと地域との連携体制の整備		
8	カウンセリングマインドとは	保育者、教師の資質としてのカウンセリングマインド ロジャースの3原則とは		
9	カウンセリングマインドの対象と目的 保育、教育の場での対応の実例、事例等	気にかかる子どもへの対応(事例) 特別な支援を要する子どもへの対応※ DVD視聴		
10	教師の新たな役割を学ぶ 学校における社会体験とキャリア教育の意義	情報化と教師の今後の役割とは 体験活動の重要性とキャリア教育の意義と課題		
11	教師をめぐる法律について	教育に関する法律とは 教師の教育活動について		
12	教師をめぐる法律について	教育職員免許法と教員養成の改革 教師の身分と服務義務-教師に関わるその他の法律		
13	教育改革とこれからの教師像 臨教審の発足と教育制度改革とは	臨教審とは(臨教審の任命背景と概要) 臨教審以後の教育制度改革		
14	教員への道	教員採用試験と就職 公立幼稚園と私立幼稚園		
15	教育とは何か・・・教育について考える 教師とは何か・・・教師について考える	まとめとして関心のある事柄について全体で協議 公務員試験過去問実施		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教職概論 教職入門 萌文書林 古橋和夫編 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 自作プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度:10% 提出物:10% テスト:80%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの理解と援助		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
保育実践において、実態に応じた子ども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を学ぶ。また、子どもを理解するための具体的な方法や、理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の子どもの発達の特徴を理解し、適切な子どもへの関わり方を習得する。人をとの関わり方をどのように学習していくのか、どのように人間関係を築いていくのかを学び、保育の中で工夫や援助ができるようになることを目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、保育の中でのいろいろな事例を想定しながら疑問点や課題を、授業の中でグループ討議する。				
回	テーマ	内容		
1~4	○乳幼児期の発達の特徴  ○愛着と親子関係  ○人と人との関わりの発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・0歳児~5歳児の発達の特徴</li> <li>・乳児期の発達の特徴 ※ DVD視聴(赤ちゃんは賢い・東京大学研究事例から)</li> <li>・愛着と形成について</li> <li>・ポウルビイの愛着の発達の過程から考える</li> <li>・愛着のタイプと養育者の関わり方</li> <li>・人間関係の始まりから仲間関係への過程</li> </ul>		
5~8	○言葉の獲得と人との関わり ○事例から子どもの心を考察  ○ハントとピアジェの発達理論 ○遊びの重要性  ○保育における評価とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの姿から考察し、グループで協議 ※ DVD視聴(はじめてのおっかい)</li> <li>・学びの動機づけとは・・・内発的動機づけと外発的動機づけ</li> <li>・遊びとは何か</li> <li>・遊びは幼児期にとってどんな意味があるか</li> <li>・保育における評価とは</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領。保育所保育指針</li> <li>・幼保連携認定こども園教育・保育要領</li> <li>・参考資料配布</li> <li>・保育に生かす教育心理学</li> </ul>		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・授業態度20% ・意欲20% ・グループ協議への積極的参加60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育課程総論		こども保育学科/1年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解し、全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を学ぶ。          子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。          全体的な計画と指導計画の作成について、意義と方法を理解する。          保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)についてその全体構造を理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として幼稚園に10年勤務 現場経験を活かし指導計画の立て方を伝える。		
時間外に必要な学修				
数多くの指導案に目を通し、保育の組み立て方を学ぶ。				
回	テーマ	内 容		
1	保育の計画と評価の基本	カリキュラムの基礎理論		
2	"	計画・実践・記録・省察・評価・改善の過程の循環による保育の質の向上		
3	保育課程	保育の全体計画の変遷と展開 指導計画(長期・短期)		
4	教育課程	教育課程の変遷と展開 指導計画(長期・短期)		
5	子どもの発達過程と指導計画	「発達」についての基礎的理解 発達の特性と発達過程		
6	"	発達過程を保育現場に生かす		
7~ 11	保育の計画の作成と展開	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 指導案の書き方、留意事項		
12	保育所・幼稚園における保育の評価	保育の記録・省察及び評価の意味		
13	"	保育日誌とエピソードから読み取る		
14	保育の評価	保育所の自己評価・第三者による評価の意味		
15	実習につなげるために	実習生が作成する指導案について(ポイント)		
16	実習につなげるために	実習生が作成する指導案について(ポイント)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 60% 指導案提出40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育内容総論		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	常田美穂
授業の概要				
<p>保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解し、保育の全体的構造を理解する。また、擁護と教育が一体的に展開することを具体的な実践につなげて理解する。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育過程につなげ、保育の多様な展開に対応できることを目指す。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。            保育の全体的構造を知る。            保育内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。            保育の多様な展開について具体的に理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		高松地域子育て支援コーディネーター・アドバイザー 4年		
時間外に必要な学修				
予習(テーマに沿った調べ学習、授業内での発表の準備) 復習(授業で出されたテーマに関するレポートの作成)				
回	テーマ	内容		
1~4	子どもの育ちを保障するための保育の基本 保育内容の歴史の変遷 保育の方法(環境・遊びと生活) 保育における計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊びと生活を通して総合的に指導する保育の特質について理解する。</li> <li>・保育者の役割や環境構成について具体的に理解する。</li> <li>・主体的な活動としての子ども遊びについて理解する。</li> <li>・現行の保育内容が設定される時代背景、現代の子どもを取り巻く社会状況について理解する。</li> </ul>		
5~8	年齢と保育内容:0歳 年齢と保育内容:1歳 年齢と保育内容:2歳 年齢と保育内容:3歳 年齢と保育内容:4歳 年齢と保育内容:5歳 試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢の発達の特徴と発達課題について理解する。</li> <li>・子どもの発達を促す環境構成と遊びについて演習も取り入れながら理解する。</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育内容総論		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 50% 授業態度 30% 発表 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
健康(指導法)		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
「子どもの健康」や「子どもの運動遊び」を様々な社会的要因との関係から分析しながら、子どもの全面的な発達を促すために、人間の身体や健康、それらにかかわる環境について理解を深め、子どもの健康に必要な指導・援助の技術・技能を獲得する。				
授業終了時の到達目標				
5領域の「健康」に記されているねらい・内容などの領域構造を理解する。 就学前段階の運動遊びの指導・援助 基本的な生活習慣の形成及び援助 健康・安全に関する保育活動について学ぶ				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園・保育所にて体育指導20年 障害児の体育指導3年 健康運動指導士として親子体操、家庭教育学級などの講師を行う。 現場経験を活かし、5領域の「健康」について事例を通して伝える。		
時間外に必要な学修				
領域「健康」のテキストのフルカラー写真を事前に見ておき、子どもの健康な心とからだの基礎をつくる重要な領域であることを予習する。				
回	テーマ	内容		
1	5領域「健康」	保育所保育指針・幼稚園教育要領 「健康」とは何だろう		
2		年齢に応じたねらいと内容について 子どもにとっての健康		
3	発達	子どもの身体機能の発達 子どもの心の発達 基本的な生活習慣の確立		
4	生活	園生活と遊び 生活環境を整える		
5	安全管理と安全教育	安全管理の必要性 危険とは リスクとハザード 園における子どもの事故・傷害の発生状況 子どもの事故の原因と特徴		
6		安全教育の実際 アレルギーについて		
7	子どもを守る	健康を守るガイドライン 幼児期運動指針 保健計画		
8		感染症ガイドラインと保育者の罹患歴などの確認 食育基本法と食育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト		総合評価	100.0%	【評価内訳】 授業態度：20% 提出物：10% 発表：70%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
人間関係（指導法）		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>子どもの人間関係の形成をめぐる諸問題について理解を深め、領域「人間関係」の内容及び意義について学習する。子どもが園生活を通じて、自分が周囲の人々に温かく見守られているという安心感から生まれる信頼感と、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる「生きる力」について学習する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>5領域の一つである「人間関係」を理解する。 ねらいと内容及び意義を事例を通して理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>幼稚園教諭として10年勤務 現場経験を活かし、子どもたちの人間関係の構築について伝えると同時に5領域の「人間関係」をみる。</p>		
時間外に必要な学修				
<p>自分の人間関係について日ごろから考え、どう周りの人に関わればいいのかを考える。</p>				
回	テーマ	内 容		
1～4	子どもの心の育ち①	<p>子どもの心の育ちを考える。 自立心 自己主張 自己発揮</p>		
5～8	子どもの心の育ち②	<p>他者を含めての心の育ち いざこざ・けんかなどのトラブル 共感と思いやり 道徳性と規範意識</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
対話的・深い学びの保育内容 適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 60% 授業態度 30% 発表 10%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
環境（指導法）		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	佐藤 洋美
授業の概要				
子どもにとっての環境とは、物的環境・人間環境・自然環境などさまざまな環境が相互して育ちに関わっている。保育者と子どもが基本的に安全で心地よく生活する条件を具体的に保育施設の構造・人間関係をもとに考察し、より良い子どもの遊びの空間を創造するための理論・技術を備えた保育士の育成を目的とする。				
授業終了時の到達目標				
幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」のねらい・内容の構造を理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年		
時間外に必要な学修				
事前にテキストを熟読する。				
回	テーマ	内容		
1～4	領域「環境」とは 領域「環境」と保育方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもにとってのよりよい環境について物的環境、人的環境、自然環境等</li> <li>人的環境としての保育者の役割とあり方について</li> </ul>		
5～8	「環境」保育の実際 「環境」実践上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導方法とその実践について</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こどもと環境 その他 資料適宜配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 50% 授業態度 40% 提出物 10%



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
言葉（指導法）		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことば感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的な学習をする。				
授業終了時の到達目標				
5領域の一つである「言葉」の内容とねらいを理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年勤務 現場経験を活かし、子どもたちが目にする文化財について事例を通して伝える。		
時間外に必要な学修				
言葉遊びを探し、教材を作る。 5領域「言葉」のねらいと内容を熟読する。				
回	テーマ	内容		
1～4	言葉とは 5領域「ことば」	言葉の発達の捉え方 言葉の発達の遅れの原因と気づき 発達のサポート  絵本・紙芝居・ことば遊び		
5～8	ペープサート作成・発表	児童文化財と言葉の発達 ペープサート作成ポイント 発表ポイント		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
資料配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 作品と発表 60% 授業態度 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
造形表現（指導法）		こども保育学科/1年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位（32時間）	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>領域「表現」は子どもの自発的表現力を高め、豊かな感性を育てることをねらいとしている。自然やまわりの身近な環境とかかわりあって、自然物を使って自由な発想で造形活動を楽しめる感性を育てる。具体的にはデカルコマニーや玉吹き絵など平面表現のさまざまな方法を取得し、表現技術を高める</p>				
授業終了時の到達目標				
5領域にある「表現」を基礎に、こどもの造形活動の技法を習得する。造形教育の目標と内容の理解。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 保育現場で得た、子どもたちが喜ぶ工作や絵画指導について伝える。		
時間外に必要な学修				
いろいろな表現技法を知り、実際に表現してみる。				
回	テーマ	内容		
1～2	5領域「表現」	「表現」の指導の視点 表現と環境、表現と保育		
3～4	幼児の造形表現の発達と特徴	基礎的な能力の形成		
5～8	表現技術の技法について	ステンシルやコラージュ、マーブリングなど 保育現場で行われている技術を学ぶ		
9～12	絵本作り	絵本作りの作り方とポイント		
13～16	絵本作り	製本し作品を作る。 完成後発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 レポート 50% 作品 50%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と音楽表現		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	鈴木 佳美
授業の概要				
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。和音感、リズム感などピアノの力をつける。その上で、子どもの経験や様々な表現活動と音楽表現とを結びつける遊びの展開などにも視点を向けていく。				
授業終了時の到達目標				
童謡の弾き語り(秋冬の曲 年少、年中) 音楽理論(調、用語、楽器) リトミック、リズム打ち(音符を見て打てるように)、合奏				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマハ音楽教室幼児化講師4年</li> <li>・障害児・障害者施設にて音楽療法2年</li> <li>・こども園にて、子育て支援、音楽指導1年 現在継続中</li> </ul> 現場経験を活かし、音楽技術・表現方法・指導法を教える		
時間外に必要な学修				
弾き語りで発表する曲の練習、合奏のパート練習				
回	テーマ	内容		
1~4	童謡合唱(年少、年中、秋冬の曲) 理論 リズム打ち(4/4、3/4、2/4、6/8拍子) リトミック 合奏 童謡 選び弾き語り練習	発声を意識し、音程正しく、歌詞は覚える 調号、調について 音符を見て打てる、自分で作る  パートを決め練習する なるべく弾き語りできるように練習する		
5~8	童謡合唱 理論 コード 弾き語り、発表 合奏	固定ドで歌う 各調の音階、和音を弾く 和音を弾く 1人ずつ発表し、緊張状態の自分を知る テンポを合わせ、お互いの音を聞く		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
ピアノ伴奏 保育のうた12ヶ月 やさしい楽しい器楽合奏集 リトミック百科 ピアノ曲集		総合評価	100.0%	【採点内訳】 童謡弾き語り、合奏 60% 授業態度 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と言葉		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
<p>子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞くとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、絵本や紙芝居の読み聞かせなど実践的な学習をする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>言葉の発達過程について理解する。  領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭10年 現場経験を活かして子どもの言葉の発達について		
時間外に必要な学修				
多くの絵本を読む。				
回	テーマ	内容		
1	言葉とは何か、言葉の発達	言葉をめぐるワークショップ 言葉の獲得についての理論と過程		
2	0歳児の言葉	乳児中心の生活と関わりを通じた言葉の獲得 豊かな関わりを育む保育環境		
3	1歳児の言葉	言葉を使ったコミュニケーションの始まり 言葉の獲得と人との関わり		
4	2歳児の言葉	2歳児の言葉の発達 対話的コミュニケーションを支える保育の場		
5	3歳児の言葉	3歳児の特徴 日常的な園生活の中で育まれる言葉		
6	4歳児の言葉	保育者との信頼関係を築く クラスの皆で話を聞くということは 自意識を持つ頃 友達関係の広がりの中で		
7	5歳児の言葉	5歳児の言葉の特徴 文字への興味関心 小学校との連携		
8	領域「言葉」のねらい及び内容を理解する	保育内容領域「言葉」 領域「言葉」と保育実践とのつながり		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
テキスト 資料配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 提出物 30% 発表 50% 授業態度 20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育 I		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	西原 和代
授業の概要				
乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について学び、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
授業終了時の到達目標				
乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について学ぶ。 保育所・乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する。 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		開業助産師として妊産婦や地域の子育て支援の経験あり 経験を活かし、乳幼児の成長過程を伝える。		
時間外に必要な学修				
赤ちゃんの育つ過程を学習する。				
回	テーマ	内容		
1~2	乳児保育の意義・目的と役割	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷 乳児保育の役割と機能、養護及び教育		
3~6	乳児保育の現状と課題	乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 保育所、保育所以外、家庭的保育等における乳児保育 3歳児未満とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場		
7~9	3歳児未満児の発育・発達を踏まえた保育	3歳児未満児の生活と環境、遊びと環境 3歳以上児へ移行する時期の保育 3歳児未満児の発育・発達を踏まえた援助、関わりや配慮		
10~12	乳児保育における連携・協働	職員間の連携・協働 保護者との連携・協働 自治体や地域の関係機関等との連携・協働		
13~15	練習	おむつ交換・授乳・調乳・沐浴等		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
乳児保育		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度 30% 期末試験 50% 課題レポート20%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅰ（保育所）		こども保育学科/1年	2020/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
保育所の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。				
授業終了時の到達目標				
保育所での生活を体験することで、その位置づけを体験する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭として10年勤務</li> <li>保育現場の経験を活かして実習指導を行う。</li> <li>・実習先の各指導担当教員 保育士</li> <li>保育現場で子どもたちの姿を通して指導を行う。</li> </ul>		
時間外に必要な学修				
保育園でどんな保育がされているのかを調べる。				
回	テーマ	内容		
1～2	保育所の役割と機能	保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり 保育所保育指針に基づく保育の展開		
3～41	子どもの理解、保育内容・保育環境 保育の計画・観察・記録 専門職としての保育士の役割と職業倫理	子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解、子どもへの援助や関わり 保育の計画に基づく保育内容、子どもの発達過程に応じた保育内容 子どもの生活や遊びと保育環境、健康と安全 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 記録に基づく省察・自己評価 保育士の業務内容、庄印鑑の連携・協働		
42～45	責任実習	全日実習・研究保育		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「保育実習事前事後指導」		総合評価	100.0%	<b>【採点内訳】</b> 評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。 実習指導者 40% 担当教員 60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅰ（施設）		こども保育学科/1年	2020/後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	45回	2単位（90時間）	必須	尾崎 桃子
授業の概要				
<p>児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子ども・利用児（者）との関わりを通して子ども・利用児（者）への理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用児（者）の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育（援助）の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>職員や児童（利用者）と生活を共にし、実習生自身がさまざまな働きかけを行うことに・より、自らの児童観・保育観、あるいはそれを取り巻く現代の家庭や社会についての考え方を深め保育士としての自覚を得る。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<p>実習先の指導担当者は、保育士として勤務しており、現場の中で、保育士としての業務等の指導を行う。</p>		
時間外に必要な学修				
実習施設の調べ物学習 教材研究及び作成				
回	テーマ	内容		
1～2	施設の役割と機能	<p>施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わり 施設の役割</p>		
3～45	<p>子ども・利用者理解 施設における子ども・利用者の生活と環境 計画と記録 専門職としての保育士の役割と倫理</p>	<p>子ども・利用者の観察とその記録、個々の状態に応じた援助やかかわり 計画に基づく活動や援助、心身の状態に応じた生活と対応、活動と環境 健康管理、安全対策の理解 支援計画の理解と活用、業務内容、役割分担と連携</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育実習事前事後指導		総合評価	100.0%	<p>【採点内訳】 評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。 実習指導者 40% 担当教員 60%</p>

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導 I		こども保育学科/1年	2020/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	木曾真, 尾崎桃
授業の概要				
<p>保育所・施設実習の意義・目的を理解する。実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。保育所・施設の子ども・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>実習事前準備を行う。(指導案の立て方・日誌の書き方・子どもの見方・保育園の業務内容について)保育技術を学ぶ。(手遊び・童謡・ペーパーサートなど) 実習後の振り返りから今後の課題を見つける。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として幼稚園に10年勤務 保育現場の経験を活かして 実習事前の準備について指導を行う。		
時間外に必要な学修				
実習園と実習施設の研究とともに 教材準備。				
回	テーマ	内容		
1	保育実習の意義と目的	保育実習とは何か、基礎・基本から学ぶ。		
2	保育所	保育所の保育について、特徴について学ぶ。		
3	保育所保育指針	保育所保育指針について学ぶ。		
4	こどもの発達過程について	0歳児(6ヶ月頃まで)・0歳児(6ヶ月頃から)1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児各年齢の発達過程を学ぶ。		
5	実習の心構え・留意事項 実習の段階	充実した実習にするための心構えや注意事項を学ぶとともに、実習の各段階で考慮すべき視点を学ぶ。		
6	保育実習の内容と方法	乳児保育実習の実際 部分実習・観察実習・参加実習・研究保育など各実習の特徴や注意点などを学ぶ。		
7	実習記録	記録と指導案の書き方について		
8	実習事後の振り返り	実習の振り返りと自己の課題の明確化		
9	施設とは	さまざまな施設について学ぶ		
10~ 11	施設実習の内容と課題の明確化	施設実習の内容、施設の種別についての理解 活動内容について		
12	実習に際しての留意事項	子どもの人権 プライバシーの保護と守秘義務		
13~ 14	施設実習の計画と記録	施設実習の計画作成及び記録作成における留意点 観察の必要性について		
15~ 16	実習事後の振り返り	実習の振り返りと自己の課題の明確化		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針 保育所保育指針 解説書 プリント		総合評価	100.0%	【採点内訳】 事前の授業態度 (保育)25%(施設)25% 事後の振り返りと発表(保育)25% (施設)25%



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児の心理学		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
子どもたちがどのようにこの世界を理解しようとしているのか、またその理解の仕方や変化や発達について学ぶ。子どもとおとなの視点の違いを知り、子どものありのままの姿を受け止めて理解する力を養う。また、保育者としての適切な子どもへの関わり方を学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の子どもの発達の特徴の理解や、人間関係をどのように築いていくのかを理解し、実際の保育の中で工夫や援助ができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭19年勤務、副園長2年勤務、副園長、園長(所長)兼任3年勤務専門学校、短期大学非常勤講師17年勤務 乳幼児から学生指導の現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
事前にテキストに目を通し、保育の中でのいろいろな事例を想定しながら疑問点や課題を、授業の中でグループ討議する。				
回	テーマ	内容		
1	○幼児の心理学の意味	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育と心理学</li> <li>・心理学の方法と発達検査</li> </ul>		
2	○子どもの発達I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛着と形成の重要性</li> <li>・人間関係の始まりと人との関わり</li> </ul>		
3	○子どもの発達II ○遊びと子どもの発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語機能の発達と認知の発達</li> <li>・遊びは幼児期にとってどんな意味があるのか</li> <li>・遊びとはなにか</li> </ul>		
4	○学習行動の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動主義と認知主義からの学習とは</li> <li>・知識の獲得と学習</li> <li>・学びの動機づけ</li> </ul>		
5	○知的能力の発達 ○パーソナリティの発達の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知能の定義と発達、測定</li> <li>・遺伝と環境について</li> </ul>		
6	○教育、保育における評価とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのように評価するのか</li> <li>・何のための評価なのか</li> </ul> ※事例からの考察		
7	○発達障害のある子どもの教育、保育を考える ○家庭ぐるみの教育的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害の特徴と対応</li> <li>・保育者のカウンセリングマインドの効果</li> </ul>		
8	○就学に向けて ○子どもをめぐる教育的問題と今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・修学に向けての取り組みと小学校との連携と関係</li> <li>・不登校、児童虐待の状況把握と対応</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育に生かす教育心理学</li> <li>・心の育ちと対話する保育の本(学研)</li> <li>・自作プリント</li> </ul>		総合評価	100.0%	【採点内訳】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度 20%</li> <li>・レポート 20%</li> <li>・試験 60%</li> </ul>

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽表現（指導法）		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（16時間）	必須	鈴木 佳美
授業の概要				
幼児教育における音楽表現の基礎知識を習得する。保育活動における音楽の役割を理解し、子どもの音楽表現活動に関する知識及び、指導、援助に関する知識・技能を学習する。				
授業終了時の到達目標				
童謡の弾き語り（春・夏の曲 年少、年中） 音楽理論（音符、用語、コード） リトミック、リズム打ち、合奏（楽譜の見方、演奏）				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヤマハ音楽教室幼児化講師4年</li> <li>・障害児・障害者施設にて音楽療法2年</li> <li>・こども園にて、子育て支援、音楽指導1年 現在継続中</li> </ul> 現場経験を活かし、音楽技術・表現方法・指導法を教える		
時間外に必要な学修				
弾き語りて発表する曲の練習 合奏のパート練習				
回	テーマ	内容		
1～4	童謡合唱（年少、年中）行事及び春夏の曲 理論 リズム打ち（4/4拍子、3/4拍子、2/4拍子） リトミック 合奏（年少、年中） 童謡（年少、年中）を1曲選び弾き語り練習	発声を意識し、音程正しく、歌詞は覚える 音符・記号・演奏順序・和音 声を出して、リズム打ち 曲にあわせて、動作を変えて 楽譜に慣れ、パートを決め練習する なるべく弾き語りできるように練習する		
5～8	童謡合唱（年少、年中） 理論 コードを弾く、音階を弾く リズム打ち リトミック 合奏 童謡弾き語り	固定ドで歌う 前回の復習、コードについて、音階 ハ長調、ヘ長調、ト長調  全体練習 発表		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜配布  ピアノ伴奏 保育のうた12ヶ月 やさしい楽しい器楽合奏集 リトミック百科 ピアノ曲集		総合評価	100.0%	【評価内訳】 童謡弾き語り、合奏 60% 授業態度 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
劇あそび(指導法)		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	山北 泰子
授業の概要				
子どもが生活の中で、経験したことや考えたことなどを自らが自分なりのことばで表現し、相手の話すことばを聞こうとする意欲や態度を育て、ことばに対する感覚やことばで表現する力を養う。また、劇遊びやごっこ遊びなどの経験を豊かにし言葉の表現力を高める指導について工夫することができるようにする。				
授業終了時の到達目標				
子どもの持つ豊かな感性や表現する力を引き出すための指導力・援助法を体得することを目標とする。自分自身が表現することを通して、イメージと動きの違いや関わりを体得する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
「表現」の領域に関する教育。保育のねらい及び内容の理解				
回	テーマ	内容		
1~4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「表現」の領域に関する教育。保育のねらい及び内容の理解</li> <li>○保育における劇遊びの必要性</li> <li>○表現することを楽しむための援助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の何を育てたいのか</li> <li>・ねらいや内容は何か</li> <li>・表現の視点から劇遊びを考える</li> <li>※発達段階を踏まえて</li> <li>①ごっこ遊びから劇遊びへ</li> <li>②役で表現する楽しさ</li> <li>③メッセージや表現の場を共有して創る楽しさ</li> <li>④観られることへの意識</li> <li>⑤お互い評価することの経験</li> </ul>		
5~8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○劇遊びのポイント</li> <li>○余裕を持った計画とは</li> <li>○子どもが主体</li> <li>○表現遊び</li> <li>○発表・鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の何を育てたいのかねらいの明確化</li> <li>・役になりきって楽しむために</li> <li>・自分なりにセリフや動きを考えるために</li> <li>・友達と一緒に劇を作り上げるために</li> <li>・子どもの希望やねらいが達成されているか</li> <li>・個々の活躍の場とは</li> <li>・主体的な取り組みになっているか</li> <li>・個々の表現に対してきちんと言葉で伝えることの重要性とは</li> <li>○グループごとに表現遊び発表・鑑賞</li> <li>・反省、課題、まとめ</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針</li> <li>・幼保連携認定こども園教育・保育要領</li> <li>・参考資料配布</li> <li>・たのしい劇遊び</li> </ul>		総合評価	100.0%	【採点内訳】 ・授業態度、意欲 60% ・実技と発表 40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と人間関係		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
乳幼児期の発達と領域「人間関係」を理解する。子どもと保育者の関わり、遊びの中の人との関わり、生活を通して育つ人との関わりを学ぶ。 個と集団の中での育ちについて考察し、親しい人との体験が生きる原動力となり、子ども一人ひとりの成長を促していることを理解する。				
授業終了時の到達目標				
「人間関係」について理解する。 人間関係の構築について理解し、人間関係を育むための援助と工夫を考える。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として10年勤務 現場経験を活かし、子どもたちの人間関係の構築について伝えると同時に5領域の「人間関係」をみる。		
時間外に必要な学修				
周りの人とのコミュニケーションを振り返る。(日ごろから)				
回	テーマ	内容		
1~2	人間関係	私たちの人間関係について		
3	保育の基本における人間関係	保育の基本と領域「人間関係」		
4	社会状況	子どもを取り巻く社会の状況		
5	5領域	領域「人間関係」の「ねらい及び内容」の取り扱い		
6	0~5歳児	0~5歳児における 人との関わりの発達と保育者の援助		
7	愛着	愛着形成について		
8	コミュニケーション能力	子どもを取り巻く人間関係		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
対話的・深い学びの保育内容 適宜プリント配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 60% 授業態度 30% 発表 10%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児と環境		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	佐藤 洋美
授業の概要				
乳幼児期の発達と領域「環境」を理解する。子どもを取り巻く環境の変化を理解し、子どもの発達と環境の関係性について学ぶ。子どもたちが、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養うために保育者がどのような関わり、環境を構成する必要があるのかを学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
乳幼児期の発達と領域「環境」を理解する。 子どもを取り巻く環境の変化を理解し、子どもの発達と環境の関係性について学ぶ。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所にて勤務 保育士28年、副所長4年、所長8年		
時間外に必要な学修				
人的環境の保育者は、子どもたちにどんな影響を与えるのかを調べる。				
回	テーマ	内容		
1	保育内容と領域「環境」	領域「環境」とは		
2	子どもの環境とかがわる力	子どもの発達理解		
3~ 4	領域「環境」と保育方法	子どもにとっての環境について 保育者の役割について		
5~ 6	領域「環境」と保育の実際	子どもの心をつかむ 保育の実際		
7~ 8	領域「環境」と実践上の留意点	実体験の意味と大切さについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こどもと環境 その他 資料適宜配布		総合評価	100.0%	【採点内訳】 試験 50% 授業態度 40% 提出物 10%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育方法論		こども保育学科/1年	2020/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
保育や教育に関する様々なトピックを検討することを通して、保育者という職務のあり方の本質的な理解を深めること、そして、今日必要とされる保育者像についての考察を深める。そのような中で、保育者としての役割や制度の検討を通して専門職に関する造詣を深める。				
授業終了時の到達目標				
教育方法の歴史の変遷を理解する。 現代の教育方法について理解する。 幼児教育の教育方法について理解する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として幼稚園に10年勤務 保育現場における保育形態のいろいろについて伝える。		
時間外に必要な学修				
保育形態について調べ、子どもに与える影響を学ぶ。				
回	テーマ	内容		
1~2	幼児期にふさわしい教育の方法	幼児教育と保育 環境をとおしての保育 「見える保育」と「見えない保育」 遊びとは 遊びから子どもたちは何を学ぶ？ 遊びの特性 心を育む環境とは		
3	幼児の主体的な生活を基盤とする保育	幼児の主体性と保育者の意図 保育者のさまざまな役割		
4	遊びの中の学びを育む保育	感じる・表現する遊び 気づく・試す・考える遊び 友達とかかわってする遊び 共通の目的を見だし協同する遊び		
5	方法としてのさまざまな保育形態	自由保育と一斉保育等の保育形態について		
6	チーム保育について	チームティーチングとは		
7~9	評価	保育における評価		
10~11	幼児期の教育と小学校教育の関連	小学校との接続 小1プロブレム 生活科など		
12~15	保育におけるカウンセリングマインド	カウンセリングマインドについて		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教育方法論		総合評価	100.0%	【採点内訳】 期末テスト 60% レポート40%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習事前事後指導 I		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	木曾 真理絵
授業の概要				
教育実習の事前・事後指導として、幼稚園の機能や内容、教育実習の目的や意義を理解したり、各科目で習得した知識や技能と教育実践とを具体的に統合することにより教育実習に対する意欲や課題意識を高めることをねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
教育実習に向けての心構えやオリエンテーションを含む実習の基礎知識の理解、また子どもの発達段階を理解し記録の仕方や指導計画の立案方法の理解。 実習事後の反省と評価、考察の視点の理解。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭として19年勤務、副園長2年、副園長、園長(所長)兼任3年、 専門学校、短期大学非常勤講師17年 乳幼児から学生指導までの現場経験を活かし保育者のあるべき姿を伝える。		
時間外に必要な学修				
実習で実施する手あそびや歌、ゲーム等レバトリーを増やす幼児教育の現状の把握や課題と等、新聞などからの情報確認				
回	テーマ	内容		
1~4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育実習の意義</li> <li>○幼稚園の機能と役割について</li> <li>○幼児期の発達課題と家庭との連携</li> <li>教育実習の流れ</li> <li>○実習園の選定と情報収集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何のための実習か。実習はなぜ必要か (実習の日程の把握→免許取得のための実習期間の把握) ※学校としての姿勢と心得</li> <li>・幼稚園教諭の職務と守秘義務</li> <li>・発達の目安と保育のポイント</li> <li>※実習園の沿革と運営</li> <li>※実習園の職員配置、クラス、環境等</li> <li>※オリエンテーション含むメモから実習日誌へつなぐ</li> </ul>		
5~8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実習園の種類</li> <li>○日誌の記録の仕方の理解</li> <li>○指導計画の作成の方法</li> <li>○まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学実習、観察実習、参加実習、一日実習、部分実習等、 各実習についての内容理解</li> <li>・日誌の各項目についての理解 ※ねらいとは・・・誰のねらいか(実習生?担当教諭?) ※内容とは・・・何に対しての内容か? ※幼児の活動とは?援助とは誰に対しての援助か ※環境と援助の記入の際の考え方を理解する</li> <li>・年齢を設定し、実際に指導計画を作成</li> <li>・評価と反省の意味の理解と記録の仕方</li> <li>・実習期間中の季節の歌や手あそび</li> </ul>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針</li> <li>・幼保連携認定こども園教育・保育要領</li> <li>・参考資料配布</li> </ul>		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業への積極的参加度 20% 発言、演習、グループ協議への参加 20% レポート 60%

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育演習 I		こども保育学科/1年	2020/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	16回	2単位(32時間)	必須	中村, 尾崎桃, 木曾真, 元木倫
授業の概要				
実践的体験を通して保育技術を学ぶ。 協力や相談しながら、自分の意見が言えるようになるために、いろいろな経験をする。				
授業終了時の到達目標				
協力しながら自分の意見が言えるようになる。 実践経験を通して保育技術を身につける。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		保育所に勤務経験あり 現場の中でいろいろな子ども達から学んだ「遊びの保育技術」について伝える。		
時間外に必要な学修				
手遊び、折り紙、パネルシアターなど、自分の引き出しを増やす。 子どもたちが喜ぶ教材を調べる。事前に準備物はそろえる。				
回	テーマ	内容		
1	保育演習とは	保育演習で何を学ぶのか		
2~16	保育実践演習	保育現場で使用できる実践技術の習得 ・手遊びや折り紙、あやとりなどの保育技術 ・教材作り(ペープサート・手袋シアター・パネルシアターなど) ・製作過程における保育技術のポイント ・作品を使って練習し発表 ・子どもたちと作る作品の場合には、どのような点に配慮する必要があるのかを捉えられる目を育てる。 ・あなかれ保育園にて保育を立案し発表 ・振り返りと今後の課題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
適宜プリント配布 手遊び百科		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度と取り組む姿勢 60% 提出と発表 40%



科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こども学概論		こども保育学科/1年	2020/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	元木 倫子
授業の概要				
子どもの育つ力と発達、子どもと父親・母親・家族、子どもの育つ環境としての地域、こども園、保育所、幼稚園の役割など子どもを取り巻く環境について総合的な視野を持つことの大切さを理解する。				
授業終了時の到達目標				
子どもの成長と発達の概要を知り現状と課題を理解する。 また、父親・母親の役割、地域の人々の役割などについて、課題を発見し、問題点を調べ、どのようなあり方がよいかについて考察する。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園・保育園で体育指導25年 障害児の体育指導3年 健康運動指導士として、家庭教育学級親子体操講師 実際、保育園・幼稚園の現場に出向き、子どもが示す行動を発達的にとらえるポイントを伝える。		
時間外に必要な学修				
テキストに目を通し、ノート等を用意する。 子どもの年齢発達に応じた絵本を持参する。				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション・こども学とは	科目・授業説明、こども学の基本理念		
2	子どもの育つ力と発達①	発達過程における心と身体の問題		
3	子どもの育つ力と発達②	こども時代の体験世界と言語 絵本から学ぶ		
4	子どもとは①	子どもの世界		
5	子どもとは②	「体験」と「経験」をめぐって		
6	体験から子どもを学ぶ	子どもの適応能力を考える		
7	体験からしか学べないこと	見守ることの大切さ		
8	子どもに寄り添うことの意味	「甘えを受け入れること」と「甘やかすこと」		
9	子どもと家族	親の気持ちと子どもの気持ち		
10	子どもの生活を現場で体験(保育園)	保育園に出向き現場で体験することで発達的にとらえる目を養う		
11	子どもの生活現場で体験(幼稚園)	幼稚園に出向き現場で年齢の発達の違いを体験する		
12	子どもの育ちと地域社会	園・家庭・地域社会の連携の大切さ		
13	親子の特別なニーズに答える	家庭教育学級の参加		
14	子どもを育む仕事	保育者として直面している子どもの問題にどう向き合うべきなのか 保育者の道を目指す心得		
15	まとめ・試験対策	全体のまとめ、期末試験対策		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
こども学概論		総合評価	100.0%	【採点内訳】 授業態度：10% 提出物：20% テスト：70%